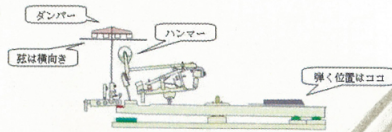


ピアノの音を出す仕組み



けんばんを押すことにより、複雑なアクリル機構が運動し、ハンマーが弦を叩くことで音が出る。叩かれた弦が振動し、その振動が駒を介して響板に伝わる。響板は、楽器全体のスピーカーとして機能し、弦の小さな振動を増幅させて、豊かな音を出せる。高音域は短く細い弦、低音域は長く太い弦が使われる。これらの要素が一つ一つの音を形成している。けんばんの動きをハンマーに伝えるアクリル機構、音を止めるダンパー、響きを調整するペダル、強固な弦のフレームがピアノの音色や表現を支えている。

ピアノについて

ピアノの歴史

ピアノは、現行不足を改良する目的で、ハンマーで弦を叩く機構「ピアノフォルテ」を開発したのが、イタリアのバルトロメオ・クリストフォリが弦を叩くことで叩いて発音させる「ピアノフォルテ」を発明し、その原型が現在のピアノへと進化した。その後、音域の拡大やアクションの機構改良が進められ、現代のピアノへと進化した。

ピアノ新聞

音更町立
共栄中学校
1年C組20番
田西 柚希

日本にいつ伝わったのか



造の改良が進み20世紀初頭にはモダン・ピアノの様式が確立され、現在のピアノにいたる。

象牙のピアノについて

象牙のピアノの輸出前に取得したものは原則として禁止されている。特に、音更町文化センターにあるピアノは、一九〇〇年以降、原則として商業目的の国際取引が禁止されている。象牙の使用は、条約適用外である。



日本にピアノが伝わったのは、一八二三年の七月六日、ドイツ人の山口豊の熊谷家におく、たのが最初とされている。この一八二三年製のスクエア型ピアノは、日本に現在ある最古のピアノ。日本が初めて国産ピアノが製造されたのは一九〇〇年（明治三三年）のこと、山葉寅楠らが製造した。一八二三年にピアノが初めて日本（長崎）に持ち込まれたのは、国産化が進み、西洋の



技術を導入しながら国産ピアノを作られるようになった。その後、家庭用の楽器として広く普及していった。現行流通しているピアノの主な種類は、弦を直接振動させて音を出すアコースティックピアノ（ペダルピアノ）と、音をデジタルで再現する電子ピアノ（デジタルピアノ）の二つに大別される。電子ピアノの誕生は一九六〇年、一九七〇年代で、一九六〇年代に「カニパニ」が発売されたRMIエレクトロピアノが初めての電子ピアノとされている。